

早くも二〇二三年は終わろうとしている。「コロナが下火となり徐々に良い年になるかと期待していたが、なかなかそうは問屋が卸さない。ウクライナに加えパレスチナに戦火が広がり、駄目押しは政治献金裏金騒動である。どの問題も人間の本性に根ざす救いのないものばかりだ。歌を詠むほどに、沸々と怒りが湧いてくる。怒りは良くないので諦めに転ずるか、と思うが残念ながらそこまでは残念ながら枯れていない。

● 銀杏の葉舞い散る道を我はゆくあゆみきたりし過去を背負いて  
北風が銀杏の葉を舞い上げ、想い出を誘い出す。そう、こんな景色をいつか見た事があつたけ、  
いづこでだったかな。心の中に風がつず巻く。

● 人工の歯と眼を入れて若返る伸びた人生如何に生くべき  
白内障の手術をうけて驚いた。世界はこんなに明るくて色鮮やかだったんだ。だが自分の顔を見て驚いた。こんなにシミだらけでしかも皺だらけだったんだ。人は本当の世界を見る事が出来るのだろうか。フィルターがかかっている事を知らず、見えているものが世界であると信じている。

● 小春日に「G線上のアリア」を聴き戦火の下の苦しみおもう  
暖かな日差しが入る書齋で、CDを聞きながらふと思う。ウクライナでは寒さをしのぎながら、ウクライナとロシアの若者たちが戦っているのだな。

● 君が住む南の空は白み行き明けの明星ひとり輝く  
最近はや明けが6時過ぎだ。雨戸をあけると南の空に金星がキラキラと輝いている。きみもこの明けの明星を見ているかな。

● 骨に滲むこの憎しみは消えざらむ世代を超えていつの世までも  
イスラエルがせまいガザ地区へ無差別爆撃を加え、追い立てられたパレスチナ人は水も食糧もなく、希望をもてない日々を暮らしている。幾多の紛争地の人びとと同じくパレスチナの人々は憎しみと共に生きてゆくにちがいない。

● オカルトと金にまみれた人達をよもや選良と呼ぶことはなし  
年末になって突如裏金騒動が始まった。底無しの汚染に日本人である事に絶望する。「名を汚す」ことを最も忌み嫌ったヤマトの人はどこへ消えた？

